

イエスのことば 第1回

「わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか」(ルカ 2 : 49)

□誕生から少年期までの時期に関する箇所

1. ベツレヘム(野外の洞窟)での誕生

(1) 誕生(ルカ 2 : 1~7)

- ① 紀元前7年か6年頃(マタイ 2 : 1のヘロデ王の死が紀元前4年)
- ② 「宿屋には彼らのいる場所がなかった」(2 : 7)
- ③ 野外の洞窟が、家畜を雨や雷から一時保護する場所として使用されていた

(2) 羊飼いたちへの告知(ルカ 2 : 8~20)

- ① 野に草が茂るのは雨期、10月中旬から4月中旬
- ② 天使たちと神の栄光が現れた
- ③ しるし「飼葉おけに寝ている・布にくるまれている」(2 : 12)
 - 「イエスを取り降ろして、亜麻布で包み、・・・墓に納めた」(23 : 53)

(3) 生後8日、イエスと命名し、割礼を施す(ルカ 2 : 21)

2. 生後40日、エルサレムの神殿にて(ルカ 2 : 22~38)

(1) 二つの儀式

① 産後のきよめ(レビ 12 : 1~8)

- 男子の出産の場合40日待つ(2~4節)
- 1歳の子羊1頭と鳩1羽(6節)
- 羊を買う余裕がなければ、鳩2羽(8節)

② 男の初子を主にささげる(出 13 : 2, 11~16)

- 「贖わなければならない」(13節)
- 贖いの代価は、銀5シェケル(民数記 18 : 15~16)
 - 聖所での1シェケルは、10グラム(市場では11.5グラム)
 - 福音書の時代では、ローマのデナリ銀貨1枚はギリシヤのドラクマ銀貨1枚と同じ。ユダヤ人の間では、1シェケルは4ドラクマ=4デナリ。よって、銀5シェケルは20デナリ。労働者の賃金20日分

(2) 二人の証人(2 : 25~38)

① シメオン(2 : 25~35)「異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄」

- イザヤ 42 : 6 あなたを民の契約とし、国々の光とする
- イザヤ 49 : 6 ヤコブの諸部族を・・・諸国の民の光

② アンナ(2 : 36~38) 女預言者

3. 幼少期

(1) ベツレヘムにて (マタイ 2:1~12)

- ① 家に住んでいた (11 節)
- ② 東方の博士たちの来訪
 - 「東の方でその方の星を見たので・・・」(2:2) ←東方の異邦人占い師バラクを通しての預言 (民数記 22:5、24:1~19、特に 17 節「ヤコブから一つの星が上り」)
 - 「東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ」(2:9~10)
- ③ 高価な贈り物 (11 節)

(2) エジプトへの逃避 (マタイ 2:13~18)

- ① 当時はローマ帝国の属州、ヘロデ王の管轄外
- ② 当時エジプトには、約 100 万人のユダヤ人が居住していたという説もある

(3) ナザレにて (マタイ 2:19~23、ルカ 2:39)

- ① 北のガリラヤ、南のユダヤ、その間はサマリヤ
- ② ナザレは北のガリラヤ地方にある村。ガリラヤには国際通商路が通っていた。
- ③ 南のユダヤ地方にはエルサレムがあった。当時のユダヤの格言「金持ちになりたいなら、北へ行け。賢くなりたいなら、南へ行け」
- ④ ガリラヤ地方に対する蔑視→「ガリラヤから預言者はいない」(ヨハネ 7:52)
 - この発言は事実ではない。旧約聖書の預言者たちの中で、ヨナはガリラヤ地方のガテ・ヘフェルの出身 (Ⅱ列 14:25)

4. 少年期

(1) 成長 (ルカ 2:40) 「成長し、強くなり、知恵に満ちて行った」

- ① 母マリヤ、ままた父ヨセフは、信仰あるイスラエルの残れる者 (レムナント) であった。当時のユダヤ人家庭では、しっかりと聖書教育がなされた
- ② 父なる神による特別な訓練 (イザヤ 50:4~5)
 - 4 節 毎朝、父なる神が少年イエスを起こし、イエスがメシアであること、メシアはいかにあるべきかを教えた。メシアとして語るべきメッセージや、メシアとして行うべきわざについても。
 - 5 節 メシアの使命の中には、苦しみを受け、そして死ぬことも含まれていると知っても、少年イエスは父なる神に逆らわず、逃げることもしなかった。
- ③ その訓練の結果、イエスはどれほど強くなったか (イザヤ 50:6~9)
 - 6 節 ついにメシアとして使命を果たす時になったとき、イエスは打つ者にご自身の背中をまかせた。痛みを避けようなどとはしなかった。ひげ

を抜く者にご自身の頬をまかせた。侮辱されても、つばきをかけられても、ご自身の顔を隠さなかった。

- 7節 (そのときのメシアの内心は、次のようであろうという預言) 神である主は、わたしを助けるであろう。それゆえ、わたしは毅然とした態度をとり続けた。それゆえ、わたしは自分の顔を火打石のようにした。(この苦しみから逃げるなら、それはわたしの恥である) 私は恥を見てはならないと知っている。
- 8節 わたしを義とする方が近くにおられる。だれが、わたしと争うのか。さあ、さばきの座に共に立とう。どんな者が、わたしを訴えるのか。わたしのところに出て来い。
- 9節 見よ。神である主が、わたしを助けるであろう。だれが、わたしを罪に定めるのか。見よ。彼らはみな、衣のように古び、しみが彼らを食い尽くすであろう。

(2) 12歳でのエルサレム訪問 (ルカ 2:41~50) この中にイエスの記録された最初のことば

□12歳でのエルサレム訪問 (ルカ 2:41~50) と、記録された最初のことば

1. 41節 さて、イエスの両親は、過越の祭りには毎年エルサレムに行った。
2. 42節 イエスが12歳になられたときも、両親は祭りの慣習に従って都に上り、
 - (1) 12歳・・・当時のユダヤ人の家庭では、13歳の成人を前に、父親の仕事を受け継ぐために見習いを始める年齢であった。
 - (2) まま父のヨセフの職業は、大工であった。聖書が記す「大工」の原語の意味は、木材を加工するだけにとどまらずに、「石を切り出す者」の意味を持っていた。
 - (3) イエスにとっては、天の父の仕事をするために準備すべき時も来ていた。
3. 43節 祭りの期間を過ごしてから、帰路についたが、少年イエスはエルサレムにとどまっておられた。両親はそれに気がつかなかった。
4. 44節 イエスが一行の中にいるものと思って、一日の道のりを行った。それから、親族や知人の中を捜しまわったが、
5. 45節 見つからなかったので、イエスを捜しながら、エルサレムまで引き返した。
6. 46節 そして三日の後に、イエスが宮で教師たちの真ん中にすわって、話をしたり質問したりしておられるのを見つけた。
 - (1) 祭りに来てから7日間、少年イエスはエルサレムにいた
 - ① 祭りの期間：2日間 (過越の祭りの日+種なしパンの祭りの最初の日)、この2日間は聖なる日のため、旅行をしてはならない。
 - ② ナザレへの帰路の途中まで：1日 (夕方に宿泊地に到着して両親が気づく)

- ③ エルサレムへ戻りながら捜す：1日
- ④ エルサレムでイエスを捜し回る：3日目
- (2) 神殿での教師たちとの問答
 - ① 「話を聞いたり」 少年イエスは教師たちがしている深遠な神学的議論を理解しながら聞いていた
 - ② 「質問したりして」 少年イエスは、普通の12歳の少年がするようなレベルの質問をしていたのではない。47節に「イエスの知恵に驚いた」とあるように、教師たちはイエスがする質問の内容の深さに驚いていた。
- 7. 47節 聞いていた人々はみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。
 - (1) 少年イエスは立派な質問ができたわけではない。教師たちの質問に対して答え、その答えは教師たちを驚嘆させるものであった。
 - (2) 教師たちは、少年イエスがナザレで受けてきたであろう教育システムだけでは到底このようなレベルに達することはできないはずだ、誰からこのような指導を受けたのか、と不思議に思っていたであろう。
- 8. 48節 両親は彼を見て驚き、母は言った。「まあ、あなたはなぜ私たちにこんなことをしたのです。見なさい。父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです。」
 - (1) 母マリヤは、わが子イエスを責めた。
 - (2) ただし、一つ間違っていたことばがある。「父上も」
- 9. 49節 するとイエスは両親に言われた。「どうしてわたしをお捜しになったのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることをご存じなかったのですか。」
 - (1) 少年イエスは、自分の父親はヨセフではなく、天の父であることを、母マリヤに念押しをした。そして、捜すなら、まず神の家に来るべきだったと告げた。
 - (2) ギリシヤ語の「父の家にいる」ということばは、「父の仕事をしようとしている」という意味にもなる。
 - (3) 少年イエスは12歳、これからヨセフの仕事を受け継ぐために大工の仕事の見習いに進むが、同時に、自分は天の父の仕事をする準備もしなければならない、ということ語ったのであった。
- 10. 50節 しかし両親には、イエスの話されたことばの意味がわからなかった。